

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13069	2	前期	必修	1	45
授業科目名 (英文)	解剖生理学実習 (Practice of Anatomy and Physiology)				
担当教員名	加藤 隆幸				
授業の概要及び到達目標					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人々の健康の維持増進・疾病予防などに携わる管理栄養士は、人体の構造と機能を十分に理解していないといけません。しかし、授業や書籍で得た情報は覚えただけでは役に立ちません。実習の目的は、関連する技術の体得と、情報を実践的な知識、つまり知恵として身につけることにあります。</p> <p>本科目では、生理機能について理解を深めるため、感覚器・循環器・呼吸器・血液に関する検査の原理と意義を学修し、検査法を習熟します。更に、生体の構造と生理機能について器官・組織・細胞レベルで理解するため、人体模型や組織標本の観察・実験動物の解剖を行います。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験に主体的に取り組み、得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。</li> <li>・生理機能検査の意義・原理・方法を説明でき、実施することができる。</li> <li>・生理機能と生体の構造について器官・組織・細胞レベルで説明できる。</li> <li>・人体に関する知識を栄養学、薬理学、病態生理の学修に活用できる。</li> </ul>					
準備学習等					
<p>授業は配布プリントに沿って行います。授業計画とプリントを読み、内容に関する概念・実験方法や原理・専門用語は参考図書などでよく調べ、十分に理解をしておくこと。既習の関連科目(特に体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ)の授業内容を振り返り、知識の確認をしておくこと。人体の構造と機能に関する課題をMoodleで課すのでクリアすること。</p> <p>レポートの作成を以って、その項目に関する実習の終了とします。知識の整理・理解の深化・思考力向上のために、レポートを作成します。そのため、実習した内容の記録だけに留めず、関連する事項をよく調べてみましょう。種々の生命現象を有機的に関連させ、考え論じる楽しさを体験して欲しい。</p>					
成績評価の方法	レポート 40%、課題 10%、発表 10%、定期試験 40%				
テキスト	特に指定しない				

参考図書	<p>「解剖生理学実験」川村一男編著（建帛社）ISBN 978-4-7679-0216-6（※）</p> <p>「栄養生理学・生化学実験」加藤秀夫ほか編（講談社サイエンティフィック）ISBN 978-4-0615-5349-1（※）</p> <p>「生理学実習 NAVI 第2版」大橋敦子監修（医歯薬出版）ISBN 978-4-2632-4072-4（※）</p> <p>「解剖生理学実習」山田哲雄編著（第一出版）ISBN 978-4-8041-1317-3（※）</p> <p>「栄養科学イラストレイテッド解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」志村二三夫ほか著（羊土社）ISBN 978-4-7581-0876-8（※）</p> <p>「標準生理学」小澤澁司，福田康一郎 監修（医学書院）ISBN 978-4-260-01781-7（※）</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 第1回の授業にはパソコンを持参して下さい。</li> <li>㊦ 本科目の受講には、「体の仕組みと働き I・II」の内容を理解していることが前提となります。</li> <li>㊦ 授業の始めに実験方法等の説明を行い、機器や危険・有毒な試薬等を使用する場合は、その取り扱い方法について講義します。遅刻や居眠り等で安全な実験操作ができないと教員が判断した場合には、他の学生の安全確保のため、授業に参加できない場合があります。</li> <li>㊦ オフィスアワー：メールでいつでも質問を受け付けています。または、授業前後に声を掛けるか、メールでアポイントを取って下さい。</li> <li>㊦ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>
授 業 計 画	
<p>第1回 ガイダンス、人体の構造</p> <p>第2回 ミクロ解剖： 組織標本の観察</p> <p>第3回 泌尿器： クレアチニンクリアランスの測定、尿検査</p> <p>第4回 感覚： 膝蓋腱反射、対光反射、味覚の閾値、皮膚感覚、重量感覚</p> <p>第5回 ラット解剖実習： 採血、臓器観察</p> <p>第6回 ラット末梢血①： 血球数算定、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度の測定</p> <p>第7回 ラット末梢血②： 血清グルコース、血清タンパク質、血清脂質の測定</p> <p>第8回 呼吸器： スパイロメーターによる呼吸機能検査</p> <p>第9回 循環： 血圧測定、心電図検査</p> <p>第10回 バイタルサイン</p> <p>第11回 発表準備</p> <p>第12回 発表会</p> <p style="margin-top: 20px;">機材準備の都合等により、授業の順序や内容を変更する場合があります。 詳細は第1回の授業で行います。</p>	